

環境マニア江戸と融合した自然素材の共同住宅

秋田県立秋田工業高等学校 高橋生恵

1. はじめに

日本で最も清潔できれいな時代、江戸時代。そんな時代にいた日本人たちは物を大事に扱い、大切な資源を最後まで再利用もしながら生活をしていたまさに“環境マニア”だったと思います。

私はその時代の江戸町民のみなさんを参考にして、環境にやさしく、なおかつ人との交流を大切にした共同住宅を構想しようと考えました。

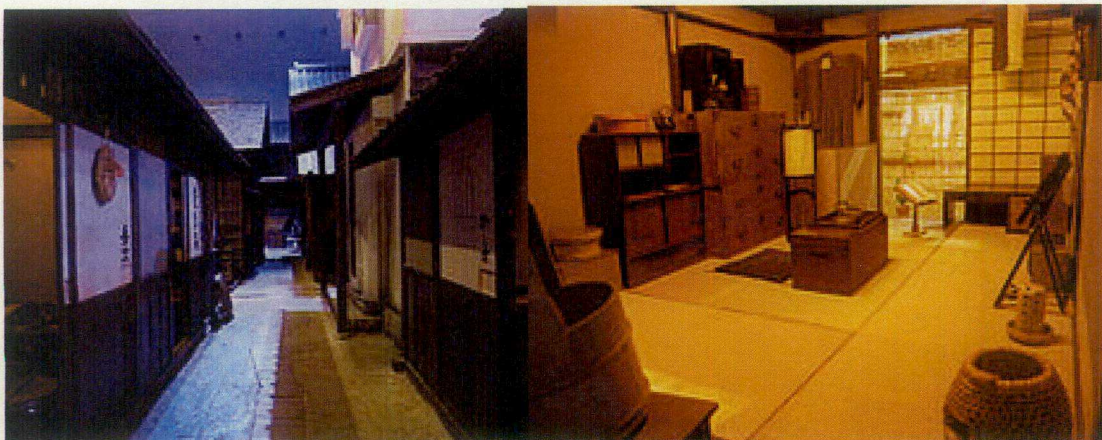


図1 江戸時代の長屋風景

2. 清潔さあふれる青森のヒバ

最初に住宅の素材として考えたのが、清潔さで有名な青森県のヒバという木材です。

このヒバには雨などに強い耐候性、害虫を寄せ付けない耐蟻性に優れていて、湿度の高い場所によく用いられます。

これにはヒバに含まれるヒノキチオールという抗菌さようのある成分が含まれており、これがヒバの耐久性・耐蟻性・耐湿性として注目を浴びています。



図2 青森のヒバ

3. 秋田の籾殻

秋田県で稲刈り時期に毎年発生する籾殻。これを再利用して壁材にしたものが実際に秋田県で作られています。

この籾殻ボードを住宅の壁に使うことで、建築コストの削減、籾殻の焼却処分の煙害防止、CO₂の削減、低炭素といった地球環境の保全につながります。

さらにこの籾殻ボードには、断熱性・湿度調節効果・吸音性・遮音性・籾殻特有のぬくもり感(気持ち落ち着く)があり、部屋の落ち着いた演出としても利用することができます。

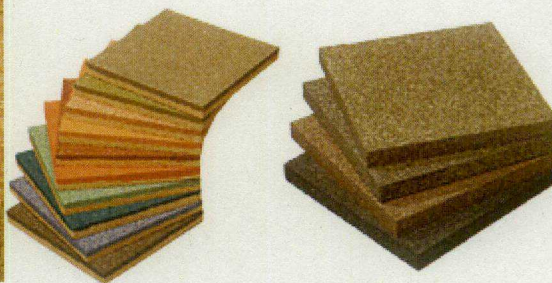


図3 籾殻ボード

4. 人と人の“交流”

すべてが共同というわけではなく、個人の空間も必要です。そこで私はイメージ図(別紙)に想像した共同住宅の平面図とモデル像を書きました。

わたしのイメージとしては時期を冬に設定したとすると、仕事帰りの住人が寒さに身を包みながら、このヒバを使った清潔で、靱殻を壁材にした温かみのある家に帰宅する。すると共同の間で暖かい暖炉と家族、または同じ家に住む住人が暖炉に薪をくべながら「おかえり。」と言ってくれる。きっと身も心も暖まると思います。そして自分たちの各空間に閉じこもるよりも、みんなと一緒に暖炉を囲んで話をしたりするのが楽しみになって家に帰るのが待ち遠しくなると思います。

この共同空間においた暖炉ですがこれにも理由があります。暖炉は木をエネルギーとして燃やして部屋を暖かくします。木を燃やすというと、悪いように聞こえますが、木とは成長過程で二酸化炭素を糧として育っていきます。その木を燃やしても、結局は入れたものを出すという結果となるのでプラスマイナス0ということになります。

つまり、暖炉を使うことは電気ストーブなどの人口的な動力を使って暖める機械よりも自然的で、暖炉特性のやすらぐあたたかみを得られると思います。

5. まとめ

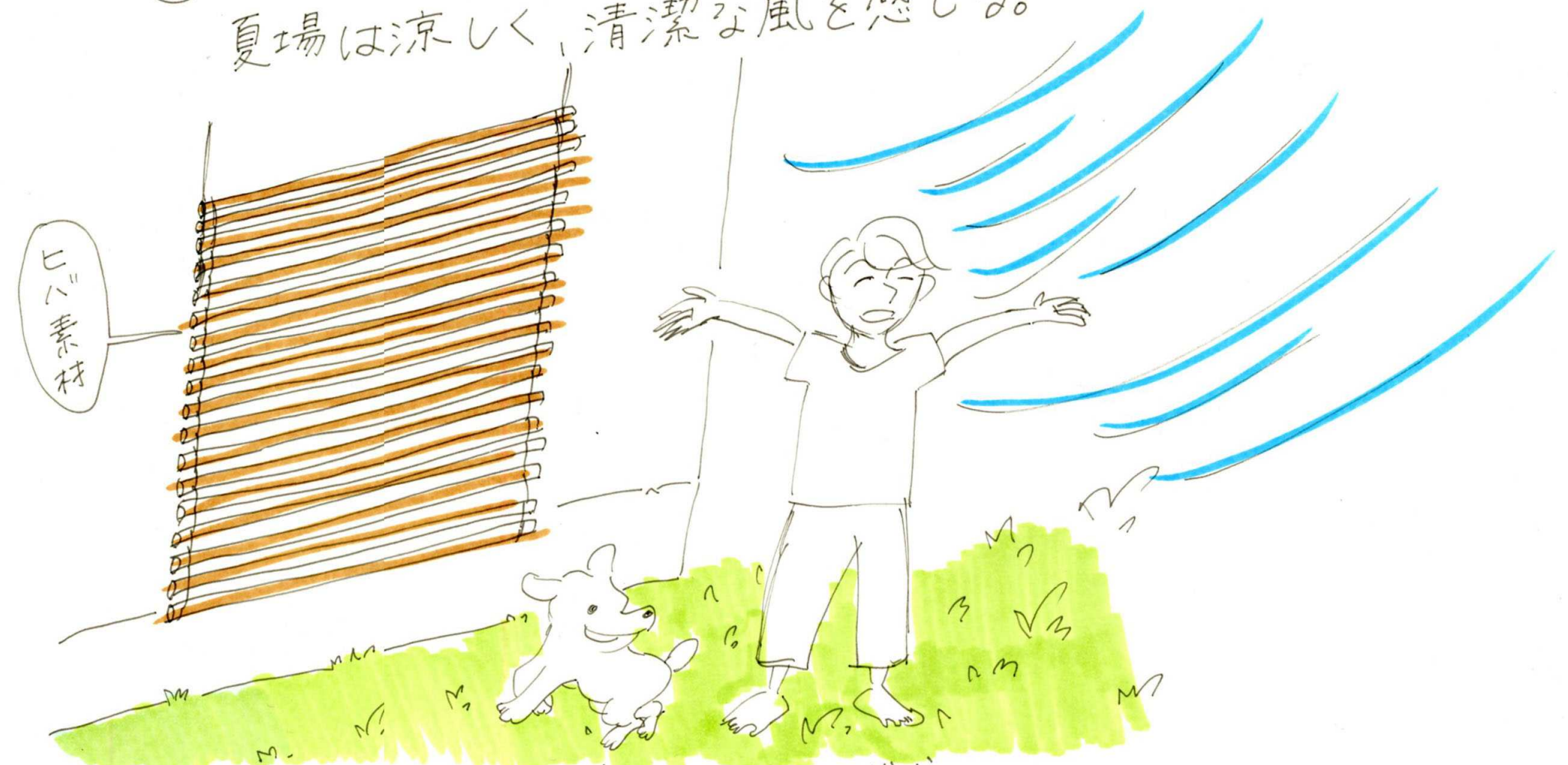
わたしは江戸時代の町民の暮らしや生活がとても好きです。小学校の夏休みの自由研究で調べてしまうほど、その時代の暮らしぶりに興味を持っていました。この提案コンテストでどんな空間を創ろうかと考えていたときに真っ先に思い浮かんだのが、江戸時代を参考にして現代の共同住宅を創ろうということでした。

わたしは、いまの人間はなんでも新しく早くつくってしまうと思います。それが例え環境にいい場合であってもこうして昔のひとたちの生活を思い起こすことで、よりよい家造りができていくことができると思っています。

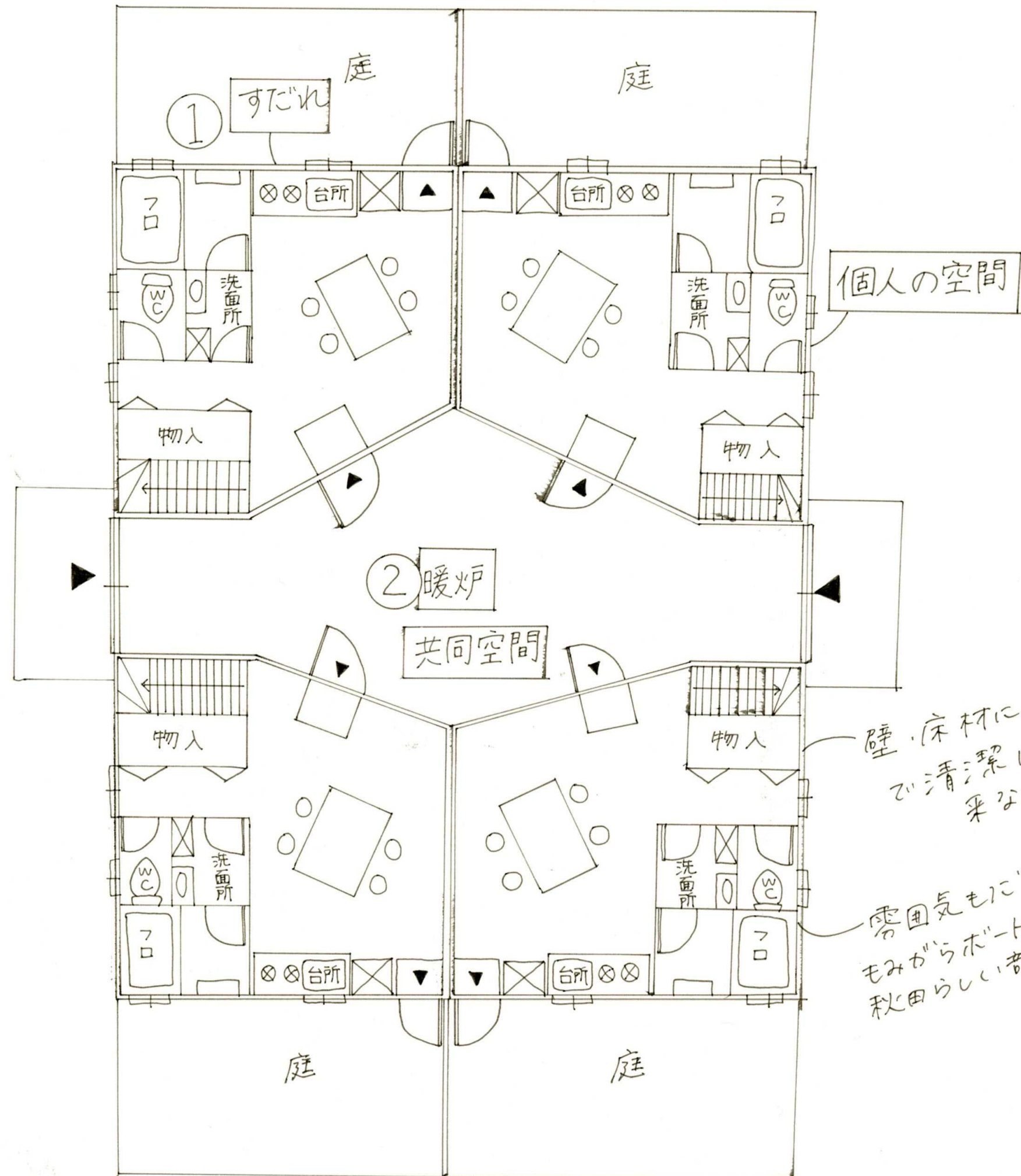
【参考文献】

1. ヴィキペディア「江戸の住宅」
2. 青森県木材共同組合 青森ヒバ住宅
3. 靱殻エコボード

① ヒバの素材を使ったすたれで
夏場は涼しく、清潔な風を感じる。



② 中央の暖炉で薪をくべながら
住人みんなと一緒に暖まる。



壁・床材にヒバ
で清潔に害虫も
来ない。

零田臭もない。
もみぐらボードで
秋田らしい部屋に。